

依田郁子さん 東京オリンピックで活躍

依田郁子さんは高校時代に陸上競技班の選手として昭和31年（1956年）8月の全国高校総体で80mハードルに優勝し、翌年も連続優勝して将来を嘱望されていました。

東京オリンピックは昭和39年（1964年）10月に行われ、依田さんは女子80mハードルに出場し、10秒7の記録で堂々5位入賞するという素晴らしい成績を収めました。本校の教職員・生徒は同窓会館の一階広間にカラーテレビを据えて応援しました。東京の国立競技場まで応援に行った生徒もいました。

オリンピックの翌年、依田さんは母校を訪問し、大歓迎を受けました。写真はそのときの物です。



昭和56年に発行された本校八十年誌に依田さんは次のように書いています。

「母校を卒業してからもう二十三年を経てしまいましたし、オリンピックが終わってからすでに十七年が過ぎ去りました。光陰人を待たずと申しますがしみじみとその感を深くしております。

この十七年間、私の部屋には素晴らしい一枚の木彫りの壁掛けが飾られてきました。これは東京オリンピックの年に、母校の同窓会、PTA、教職員、生徒の皆様が心を込めて私に贈ってくださった上田民芸木彫りであり、私自身の走姿が刻まれております。この木彫りをみつめるたびに、夢中で頑張った東京オリンピックのこと、母校や郷里の皆様の温かい声援をいただいたことを思い出しては今でも自分の胸が熱くなってまいります。

振り返ってみますと、私のオリンピックへの道は染谷丘時代に開始されたことになりました。もちろん染谷丘時代にはオリンピックに参加することなど夢にも考えられないことでしたが、土屋先生を中心とした陸上部員の人達と一緒ににぎやかに走ったり、跳んだりした常田のグラウンドが出发点となりました。狭い校庭に二、三台しかなかった重いハードルを並べて跳んだことや常田の池のほとりを走ったこと、そして練習で疲れた体を引きずるようにして上田丸子電鉄で帰ったことなど忘れられない思い出となっています。練習の甲斐あって高校二年生と三年生の夏の全国高校総体の80mハードルに続けて優勝することができました。この優勝がきっかけとなりましてその後七年間競技スポーツの道を夢中に走り続けることになってしまいました。

数年前でしたか、国分、常田あたりを通る機会がありましたが、昔の面影はなく寂しく残念な気持ちで去りました。しかし、私にとって常田の染谷丘のグラウンドはどんなに小さくてもオリンピックへの道の出发点であり、青春の記念碑でもあります。いつまでたっても私の心の中から消え失せることはないでしょう。」

出典：本校百年誌より